



# モモ優良品種「さくひめ」の果実品質向上技術を開発

## — 光反射シートと2重袋の利用で着色が向上します —

### 開発の背景・ニーズ

農研機構育成のモモ新品種「さくひめ」は、6月下旬から収穫でき、果実品質が優れるため、県内生産者から注目されています。この品種の特性として、果皮が紅く着色する部分が少ない点が挙げられます。また、年によっては果皮に果点が発生し、程度が激しい場合には裂果を伴うこともあります。

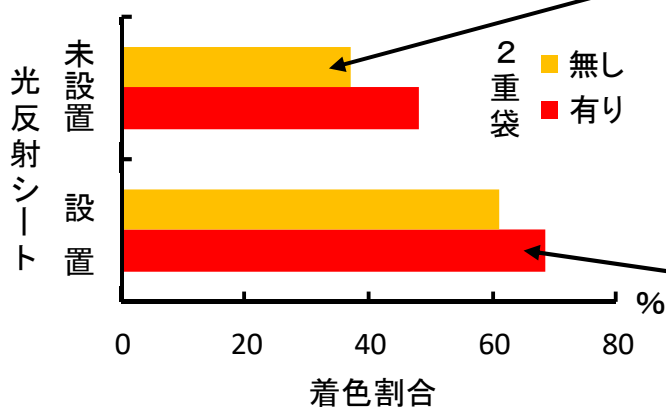
そこで、「さくひめ」の着色など果実品質をより向上させる技術の開発に取り組みました。

### 成果の内容

- 6月上旬から光反射シートをモモ樹の下に設置することで、「さくひめ」の着色割合（果実表面で紅く着色した部分の割合）を高めることができます。さらに、5月上旬に2重袋をかけ、6月上旬に外側の袋を外すことで果皮の紅色を濃くすることができます。
- 2重袋をかけることで、果点と裂果の発生を軽減することができます。



光反射シートの設置



光反射シート無し・無袋



光反射シート設置+2重袋

2重袋が果点及び裂果の発生に及ぼす影響 (2018年)

区分	果点の発生程度指数	裂果率 (%)
2重袋区	27.5	0.0
無袋区	66.3	3.1



果点

果皮表面の発生した果点

### 愛知県農業への貢献

光反射シートと2重袋による着色向上技術により、紅く着色するモモ品種を求める産地に対しても「さくひめ」を広く普及することができます。